

単元案の概要

単元名:街角外国語ワード・ウォッチング:私たちの街などにある身近な表記は韓国語母語話者にとって優しいか					
科目名	韓国語	作成日	2015年9月13日	作成者	阪堂千津子
学年/年次	2年生16名、1年生5名(能力差のあるクラス)	クラス人数	21人	使用教材	「もっとチャレンジ!韓国語」(参考)
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2~3	必要時間数	授業内約9時間+授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
<p>「私たちの街などにある身近な表記は韓国語母語話者にとって優しいか」を検証することを目的に、学習者がグループで、大学構内、地域の交通機関、家電量販店、飲食店など身近なところに韓国語があるかどうかを調査し、ネイティブスピーカー(校内の韓国人留学生や韓国人講師)にその意味、使われ方が正しいか、分かりやすいかなどを調査、検証したうえで、日韓対訳の成果物(スライド)をグループのメンバーで協働して製作する。その中で表記を通して他言語や社会との主体的な関わり方を考え、積極的に外部にはたらきかける基盤を作る。</p>					
(言語)コミュニケーション能力指標					
<p>【交通と旅行】</p> <p>1-d. 施設の案内表示や街中の標識を見て理解できる。</p> <p>2-k. 車内や駅などに書いてある、交通ルールやマナー表示文を見て理解できる。</p> <p>3-i. 列車やバス・駅・飛行機・空港内での通常のアナウンスを聞き取ることができる。</p> <p>【人とのつきあい】</p> <p>3-e. 日本の家庭や学校(当プロジェクトでは公共施設)で守らなければいけないマナーやルールについて口頭でまたは書いて説明できる。</p> <p>【地域社会と世界】</p> <p>2-a. 自分たちの住んでいる町や都市について紹介する簡単な資料を作ることができる。</p> <p>2-b. 自分の住んでいる町や都市に対して思っていることを話すことができる。</p> <p>【ことば】</p> <p>3-f. 日本語と学んでいる言語を比べて、類似点や相違点を、簡単な例を挙げて文章で説明できる。</p> <p>【オリジナル指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ある外国語表記が正しいか、分かりやすいかを目標言語話者に確認できる。 ・ある外国語表記についての問題点や改善点を成果物としてスライドにまとめて、口頭や文章で説明できる。(レベル3) 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動		学習シナリオ			
既習の文法、句型を主に使用したため、必要に応じて既習項目を復習。・自己紹介ビデオには、並行して行う通常授業で習得した「편이다 ~するほうです」「있/있으면 좋겠다~したらいい		<p><場面状況> 武蔵大学人文学部日本・東アジア文化学科の韓国語選択クラス(2年生と1年生の混合クラス・21名)では、江古田や池袋など自分たちの住む地域を中心に、身近にある大学や商業施設、飲食店にある韓国語表記を調査し、それらが正しいか、韓国語ネイティブの人びとにとって分かりやすいかを検証することにした。</p>			

韓中独連携プロジェクト_街角外国語ワード・ウォッチング_阪堂千津子（韓国語、武蔵大学）

<p>なあとします」をなるべく使用するよう に指示。・発表に必要な語彙はその都 度、補充(グループによって必要な語 彙は異なるため、個別対応)。</p>	<p><活動の流れ>①プロジェクトのねらいと発表対象者(校内の他学年の韓国語履修者 や他大学の他言語の学生)を説明。「表記」に関するテーマを効果的で分かり易く、か つ「大学生らしい」「高度な思考力」を要するプレゼンとは何かをブレインストーミング。 昨年度の校内イベントでの発表動画を鑑賞、評価方法を紹介。その後、グループ分け (3グループ)②北九州市立大学の中国語クラスと横浜市立大学のドイツ語との連携プ ロジェクトのため、全員の自己紹介のビデオを作成。ウェブ上(グループウェア)で公 開。③各グループで主題を決定。(大学構内の外国語表記、公共施設の外国語案内 表示と音声、韓国料理に関する表記、の3テーマ)。写真撮影・音声収録など資料収 集方法とスケジュールについて話し合い。④成果発表の評価基準表をクラス全員で話 し合いの上、作成。進行予定表配付。韓国語母語話者(留学生、講師)へ表記につい てのインタビュー実施(Email、対面)。韓国人留学生には、SNSを使って韓国語でイン タビューも行う。⑤両大学から送られてきた自己紹介(スライド)を鑑賞。グループごとに 調査続行。⑥集めた資料(韓国語表記の看板、メニュー、店内の音声など)を元に発 表の構成を話し合い、役割分担して原稿作成。⑦原稿を元に、日韓まじりの成果物 (スライド)を完成させる。⑧校内韓国語イベントでグループごとに日本語と韓国語ま じりで発表(司会進行も)。来場者にはクラスで作った評価基準表に評価などを記入し、 提出してもらう。⑨校内イベントの評価シートを参考に成果物(スライド)を修正したう え、クラス内で韓国語だけによる発表を行う。(評価基準表による相互評価を実施)。⑩ ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップ。⑪アップされた他大学の成果物の鑑賞 会を実施。感想をウェブ(グループウェア)で送り、交流を図る。</p>
--	--

評価活動

<p style="text-align: center;">形成的評価</p>	<p style="text-align: center;">総括的評価</p>
<p>・毎回、授業の最初に各グループの報告者を決め、授 業終了時にグループの作業進捗と次回の予定をまとめ て講師に報告。協力しながら与えられた課題を時間内 にこなしているかチェック。</p>	<p>プロジェクトワークでの成果物を、事前に話し合いにより作成した評価 基準表により、①イベント来場者による評価と②クラス内での成果物報 告会での相互評価で、評価する。</p> <p>評価基準表：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1)～5)を1～5点の五段階で評価 1)発表内容(わかりやすいか)、2)内容の完成度(資料が充実してい るか)、3)興味・関心度(発表の内容はおもしろく、興味や関心が沸い たか)4)プレゼン力(発表は聞き取りやすいか)、5)チームワーク(まじ め・熱心さが伝わるか) ・自由記述(ひとことコメント) <p>各グループの良かった点・次回へのくふう、について</p> <p>この他、単元の成績には関係しないが、同じ評価基準表を使用して 上の5項目を自己評価した。また、作業を通じて得られたこと、授業 の進め方や準備について気が付いたことや感想・意見などについて もコメントを書いてもらった。</p>

3×3+3 分析表

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> 街にある韓国語表記(音声も含む)について知り、その意味を理解する。 街の韓国語表記(綴りや表現)の誤りに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> 街でよく見る韓国語を通じて韓国の文化と習慣について共通点や相違点を理解する。 食堂のメニューなどを通して日本語に韓国語が浸透していることを理解し、その誤りや関係性を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 単なる直訳の表記ではなく、外国人の視点に立った外国語表記が必要であることを理解する。
できる	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語を使って、大学や街・公共施設などで使われている韓国語表記についての情報を伝えることができる。 街の韓国語の表記と日本語表記を比較して、その共通性や相違性を分析することができる。 韓国語と日本語で成果物を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 日本と韓国の文化や習慣の違いを考慮しながら、わかりやすいあるいは正しい韓国語表記について、改善点などを考えたり提言したりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 街の韓国語表記についての問題を解決するために、グループで調査を進め、韓国語母語話者に確認するなどして分析を行い、調査結果に基づいて、問題点及び自分たちの考えを、聞き手の韓国語の理解度や環境に合わせて表明することができる(高度思考) SNS(サイボウズなど)を活用して、情報交換を行うことができる(ICT活用) グループで分担したり協力したりしながら成果物(スライド)にまとめ、発表することができる。(協働学習)
つながる	<ul style="list-style-type: none"> 韓国語を使って韓国人留学生とSNSやEmailなどで表記についての情報交換を行うことができる。 韓国語を理解できない聴衆も意識しながら、韓国語を使って分かりやすく効果的に調べたことを発表することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 韓国人留学生や韓国人講師に、街や大学で表記に関して困ったことについてインタビューしたり、韓国語での望ましい表記について情報交換することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 調査収集した情報を韓国語・日本語併記した成果物にまとめ、校内の他学年(おもに韓国語履修者)や、他大学の他言語履修の学生に向けて、効果的にわかりやすく発信することができる。
三連携	<p>【学習者】自分のごく身近にある外国語表記(大学、韓国食堂、家電量販店) 【教室外】ネイティブスピーカー(留学生と講師)、他大学他言語クラスの学生、 【他教科】日朝交流史、日本の食文化史</p>		

韓中独連携プロジェクト_街角外国語ワード・ウォッチング_阪堂千津子（韓国語、武蔵大学）